

経営理念の変遷と企業活動成果への影響についての考察

—テキストマイニングを使用した経営理念分析、
現代日本企業に求められる経営理念とその志向性—

氏 名 牧之内 洋和

指導教員 松田 憲

要 旨

本研究においては、日本を代表する企業（日経平均構成銘柄 225 社から抽出した対象企業 110 社）の経営理念についてテキストマイニングの手法を使用して、時系列変化（2004 年から 2024 年）を分析した。また、現在の日本企業が実際に掲出している経営理念の傾向をつかみ、それらの経営理念が企業活動の成果にどのように表れているかを検証することで、現代日本企業に求められる経営理念とその志向性を明らかにすることを目的とした。本研究で得られた成果は、今後の経営理念構築もしくは見直しの際の一般的方法論と指針に寄与するものである。

分析対象期間の経営理念の変化では、「社会」への言及数には変化はなく、「未来」言及企業が増加していること、「顧客」言及企業が減少していることを特徴として捉えた。また、経営理念の企業活動の成果への影響を、3 つの視点「企業規模（総資産）」「企業業績（売上高）」「企業価値（株価）」で趨勢値を用いて分析し、経営理念内の表現（志向性名詞）において「価値」「世界」が、これらの企業活動成果に「正」の影響を与えるものとして考察している。今回は経営理念の構造分析及び成果評価に着目したが、経営理念にどのような単語が必要かという短絡的な結論を導くものではなく、経営理念とは企業活動そのものであり企業活動に必要な要素を経営理念から紐解くアプローチを目指したものである。分析対象期間の経営理念及び企業活動成果の検証を通じて、現代の日本企業に必要な志向性は「価値」志向であり、「世界」志向であることが明らかとなった。これらを踏まえて、経営理念を構築する際、自社が①どのような「価値」をどのように創造するか、②市場、企業活動の展開エリアとして「世界」とどう対峙するか、この 2 つの要素が最も重要となる。